

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年4月8日（月）

2 確認箇所

F 1 タンクエリア、F 2 タンクエリア

3 確認項目

- 5・6号機建屋滞留水移送経路の状況
- 5・6号機建屋滞留水構内散水の状況

4 確認結果の概要

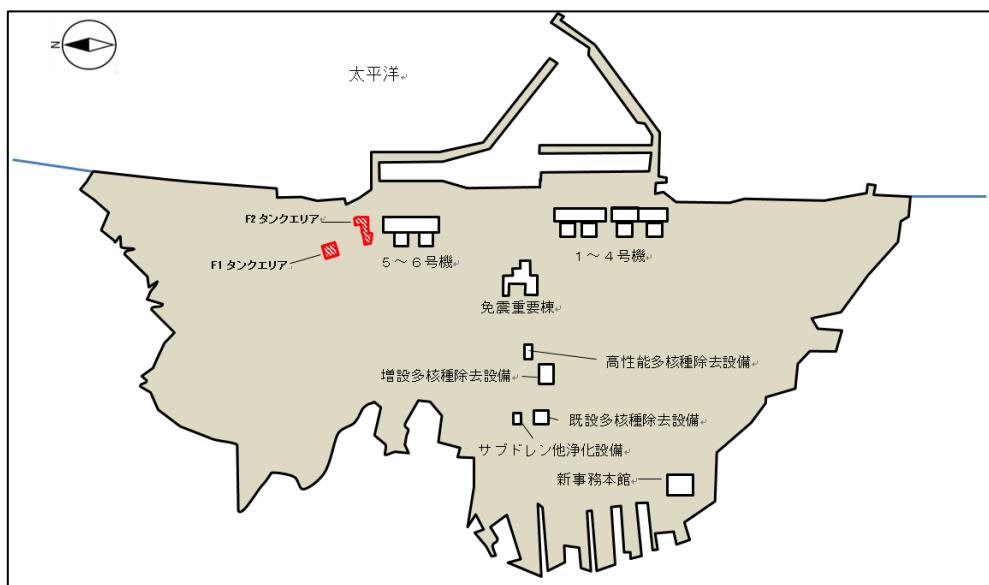
5・6号機滞留水（以下「滞留水」という。）は、F 1 タンクエリアに移送され、浄化处理された後、構内に散水されている。

従来、滞留水は6号機タービン建屋に集水され、F 2 タンクエリアのタンク（フランジ型タンクを含む）を経由してF 1 タンクエリアに移送されていたが、フランジ型タンクは溶接型タンクに比べて漏えいのリスクが大きいため、東京電力は順次置き換えを進めており、F 2 タンクエリアにおけるC群タンク（フランジ型）も令和4年度末までに運用を停止する計画としていた。

上記計画の一環として、滞留水を、F 2 タンクエリアC群タンクを経由せずF 1 タンクエリアに移送する運用が始まったことからF 1 タンクエリア及びF 2 タンクエリアの現況について確認した。（写真1）（図1）（前回確認：[令和6年2月22日](#)）

- ・F 2 タンクエリアC群タンクを経由せずにF 1 タンクエリアに滞留水を移送するための新たな移送配管が、プラスチック製のボックス内に設置されていた（写真2）
- ・滞留水をF 2 タンクエリアからF 1 タンクエリアに移送するためのポンプが停止していた。（写真3）
- ・F 1 タンクエリア内のN 1 タンクの入口弁が「開」となっており、F 2 タンクエリアC群タンクを経由しない滞留水の移送が始まっていた。（写真4）
- ・浄化处理後の滞留水がF 1 タンクエリア北側で散水されていた。なお、今回の散水は、タンク内を点検するための準備作業に伴い、本設の配管の代わりに仮設ホースを使用していた。（写真5）
- ・漏えい対策として、滞留水移送のための仮設ホース接続部には受けパンの設置やビニール養生等の措置が取られていた。（写真6）

- ・確認した範囲では、弁、配管、ホース等からの漏えいは認められなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
F2タンクエリアの概観
C群タンク



(写真1-2)
F1タンクエリアの概観
N群タンク



(写真2)

F2タンクエリアに新たに設置された移送配管



(写真3)

F2タンクエリアに設置されている移送ポンプ (今後は使用しない)



(写真4)

N1タンクの入口弁



(写真5-1)

仮設ホースによる散水状況①



(写真5-2)
仮設ホースによる散水状況②



(写真6)
仮設ホース接続部の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。